

# と信 ひ短

証、医師の育成を行ってきた。

4月から現病院に赴任するとともに、新設の人工関節センター！・股関節疾患センターのセンター長に就任した。これまで培ってきた技術と知識を生かし、最先端の手術治療を展開していくほか、後進の育成も行う。

## 技術と経験を生かし 安心感与える説明を

「患者にとって手術は恐ろしいもの。専門用語を羅列する

のではなく、分かりやすく、丁寧な説明がな



「人工股関節手術は、デバイスや手技が進化しても、危険が伴う手術であることに変わりはない」と話す、札幌孝仁会記念病院（西区）の名越智副院長。

札幌医大1986年卒。寄附講座「生体

工学・運動器治療開発講座」で、

人工股関節置換術、股関節治療の新たな手技やデバイスの開発、実

よりも患者に安心感を与えることを若手医師に伝えていきたい。